

所属・氏名（ 看護学部 看護学科 氏名：岡本 裕子 ）

著書、学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行又は発表 の年月	発行所、発表雑誌 等又は発表学会等 の名称	概 要
1 (学術論文) 在宅療養の神経難病高齢者の病いの体験と生活確立プロセス《筆頭論文》	共著	2019年	ヒューマン・ケア研究, 20(1), 37-48	神経難病高齢者5名に面接調査した病の体験と生活確立プロセスについて質的に研究した。結果、対象者らは過酷な療養生活の中で、社会や医療とのつながりを保ち生活を確立していることがわかった。医療への期待は大きいですが、その内情を理解する姿勢が重要と思われた。共同研究者：岡本裕子, 江口 瞳, 河野保子, 讚井真理)
2 (学術論文) 看護教育の場におけるヒーリングタッチの元気効果の検討《筆頭論文》	共著	2019年	看護・保健科学研究誌, 19(1), 10-19	健康な成人女性を対象にセルフヒーリングタッチと音楽聴取の効果について、ストレス指標と心理状態の二側面から調査した。心拍変動や他の客観的指標では両者間に有意差はなかったが、POMS による心理状態変化では両者ともリラクゼーション効果が認められ、ヒーリングタッチでは温もりを感じたり、身体症状が軽減する等が元気効果として着目できた。共同研究者：(岡本裕子, 高橋 登志枝, 竹山広美, 坂村八恵)
3 (報告・発表) 神経難病高齢者における生活実態と生きがい感, およびスピリチュアリティ健康感との関連性 p.35 《筆頭著者》	共著	2018年	日本看護研究学会中国・四国地方会第31回学術集会(山口)	神経難病高齢者と一般の慢性疾患をもつ高齢者との生活状況と健康状況について比較検討した。生活状況については家族形態や生活上の重要事項など類似した点が多かったが、健康状況は難病高齢者の苦痛症状等が明らかに大きかった。 共同研究者：(岡本裕子, 讚井真理, 秋山 智, 三宅徳則, 河野保子)
4 (報告・発表) SEIQoL-DW からみた若年性パーキンソン病患者のコロナ禍の影響	共著	2021年	第26回日本難病看護学会学術集会, 熊本 (Web 開催)	経年的に行っている若年性パーキンソン病患者の SEIQoL-DW 検査で、コロナ禍における影響を前年度と比較した。キュー自体の変化はあまりなく、日常生活においては身体を動かす機会の減少などマイナス面も多くあった。特に入院下での面会制限は精神面に大きな影響があり SNS 等の活用が有益であった。 共同研究者：(秋山 智, 岡本裕子, 平岡正史)
5 <報告・発表> 若年性パーキンソン病(PD)患者の病気の不確かさに対する向き合い方	共著	2021年	第26回日本難病看護学会学術集会, 熊本 (Web 開催)	過去9年間、野川の病気の不確かさ尺度(UUIS)を用いた調査で、今回は得点が平均より高値のまま経過した人と、平均より低値のまま経過した人の病気の向き合い方の特徴を検討した。 結果、対象の4人全てが自分の置かれた状況を不確かと認識しているが、揺らいでいる状況の向き合い方に差があると考えられ、症状の程度や、環境・性格傾向、信念が大きく影響していると推測された。 共同研究者：(平岡正史, 秋山 智, 岡本裕子)

令和 4年 6月 6日 現在